



「持続可能な社会の実現」を目指し、より良い環境を未来の世代へ受け継いでいくために、気候変動に代表される地球環境問題、海洋プラスチックごみ対策、生物多様性保全と国立公園・世界自然遺産の保護と利用といった地球規模の仕事から、福島復興・再生や地域循環共生圏の創造といった地域に貢献する仕事まで、広範に活動しています。



職員数:

2,265人(令和7年7月時点)

勤務地:

本省(霞が関)勤務のほか他省庁、独立行政法人等及び全国8カ所の地方環境事務所での勤務があります。その他、能力に応じて海外勤務の機会もあります。

また、一般職自然系は日本各地の国立公園管理事務所及び自然保護官事務所等での勤務があります。

キャリアパス:

2~3年おきに異動を経験し、能力や適性に応じて、“係長”、“課長補佐”へと昇任していきます。

先輩職員からの声:

私は理工系職員として、日本・中国・韓国の環境協力や、JCMという二国間協力の枠組みの推進といった、国際関係の業務を担当しています。中でも印象に残っていることは、年1回行われる日中韓三カ国環境大臣会合で三カ国間の環境協力内容について書かれた共同コミュニケという文書に三カ国の環境大臣が署名を行いますが、その作成を担当したことです。環境省内はもちろん、中国・韓国の意見をとりまとめ、上司と長い時間をかけて作成した共同コミュニケに、会合の最後に三大臣が署名した瞬間は、「あれが私が作成した文書なんだ!」と、とても感動しました。このような、自分の手で環境政策を動かすという唯一無二の実感を、ぜひ環境省で味わってみませんか?

(令和4年採用・土木 地球環境局 国際脱炭素移行推進・環境インフラ担当参事官室

(併任)国際脱炭素移行推進・環境インフラ担当参事官付JCM推進室)



各職種の紹介:

一般職事務系

事務系職員は主に組織運営のスペシャリストとして活躍します。その為に、あらゆる管理業務に従事し、担当者として国規模の政策に直接携わる機会もあります。環境行政を支えていく中で基盤となる重要な業務であり、“縁の下の力持ち”として必要不可欠な存在です。

一般職理工系

理工系職員は、科学的知見を背景に、自然環境を除く環境政策(例えば、脱炭素や資源循環など)の制度づくりや運用、プロジェクトの実施を担います。

一般職自然系

自然系の職員は、通称「レンジャー」と呼ばれ、生物多様性の保全、国立公園や野生生物の保護管理、自然再生、施設整備など、自然環境全般に関わる仕事をします。全国各地で自然と人をつなぐ役割を担います。

